



発行所

兵庫県精神薄弱者愛護協会
兵庫県育成会施設保護者協議会
〒654

神戸市須磨区友が丘1-1

発行責任者 金附 洋一郎

印刷所 交友印刷株式会社
〒652

神戸市兵庫区水木通9丁目1-34

電話 (078) 576-6161

新たな愛護協会へ

兵庫県精神薄弱者愛護協会

会長 金附 洋一郎

一九九四年の新年幕開けから有権者の関心の的は政治改革法案の行方であったと思います。

紆余曲折の末、法案は承認されましたが、これに政治腐敗防止法が含まれると本来の政治の再生が図れるのではないのでしょうか。

これら一連の審議を含めて国会が、一九九三年度末までに補正予算を含む重要な議案を処理し、一九九四年度は政治、経済とも期待のもてる年であってほしいと願います。

さて、愛護協会を含めた福祉業界は平成二年（一九八九年）福祉八法の改正が福祉改革元年とすれば、平成六年（一九九四年）は第二次改革の年ともいえるのではないのでしょうか。

全国三、三〇〇余の市町村は本年三月末までに老人保健福祉計画を策定し、在宅と施設福祉の一元化が新しく発足することになりますが、その他、具体的に年金、医療、福祉の社会保障制度の見直しが始まろうとしています。

まず年金に於ては、支給年齢を、六五歳に引き上げることの是非を検討し、医療保険審議会は入院の場合、一日当たり食事代八〇〇円の負担を、保育問題検討委員会は措置費制度の見直しから年収五〇〇万円以上の家庭については保育園の直接入所と利用料の検討、

中央社会福祉審議会に於ては特別養護老人ホームの食費負担、私的契約ベッド、老健病院との関連についての検討、等々――

我国は今後、老齢年金受給者が毎年65万人づつ増加していく高齢化社会を乗り切るには現行の社会保障制度では対応しきれず二一世紀に備えて「介護保険制度」の導入が検討されています。

その他、NTT、コープ、農協といった異業種が福祉業界に参入してきましたが、これらの企業は豊富な資金と幅広い知識を持ち、企業的センスでニーズの多様化に対応しようとしています。

以上の列挙した事項は老人、児童

だけの問題だけでなく、知的障害者の福祉とも深い関わりがあり、これ迄の救済、救済、慈善、博愛の理念から、介護、援助を必要とする全ての市民を対象とする幅広い福祉サービスへの「改革」が求められています。

確かに施設は規模が小さいのに、役割だけが大きく、現実の狭間で困惑している状況だと思いますが、将来の組織、財務の改善の解消も含めて、思いきって地域内での施設間（児童、老人等を含む）が集合、協業、合同するとか、発展的なリストラに着目することも一つの対応であり、そこから新しい愛護協会が生まれると考えます。



広がれスポーツの輪

第2回ゆうあいスポーツ大会開かれる

平成五年五月一三日、知的障害者のスポーツの一層の発展を図ると共に県民の知的障害者に対する理解と認識を深め、知的障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的として、高砂市総合運動公園において、第2回ゆうあいスポーツ大会が開かれました。



種目に加えられました。

初めてであるだけに競技運営については両種目とも、参加者数、組み合わせ方法、試合時間、効率的な運営方法等入念に検討を重ねました。

卓球の部は二二名の参加者を得、

試合運びは鋭いカットやスマッシュ、延々と続くラリーの応酬に思わず目を見張るプレーもありました。

卓球は他の種目と異なり、順位以外に技術力を判定する役員を配置してもよいのではないかと思われました。

ボーリングの部は、六月十日、姫路スターレーンに三六名の参加者が集いました。

二ゲームの合計点数で順位を競いましたが、最高得点は三二一点というハイスコアでした。

ゆうあいスポーツ大会を通して今後もスポーツと交流の輪を広げていきたいと思えます。

(木の根学園 四方修身)

バレーボール大会報告

大会前日の天候が、嘘のような青空の下、県下23チーム約300名の職員が集い、第16回施設職員バレーボール大会が9月5日(日) 明石公園バレーコートに於いて開催されました。年々、個々の技術も向上し、ファインプレーの連続で接戦が続きました。その中で今年度優勝は、バツグンのチームワークで一戦一戦勝ぬいてきた、ひふみ園に輝きました。

(大会の成果は次の通り)

一部優勝Ⅱひふみ園

〃 準優勝Ⅱもみじ会

〃 3位Ⅱ赤穂精華園B

二部優勝Ⅱ播磨園

三部優勝Ⅱ愛心園

四部優勝Ⅱ三田谷治療教育院

最優秀選手Ⅱ(女子) 藪内由佳ひふみ園

〃 Ⅱ(男子) 中村文信もみじ会

ファイナルプレー賞Ⅱ浜本さとみ

チームワーク賞Ⅱあゆみの里

〃 Ⅱ養徳会

以上

なお、天候不順の為、開催が危ぶまれて関係者の皆様には、たいへん御迷惑をおかけしました事を心より御詫び申し上げます。

(職員部会長 山本 忠明)

福祉野球神戸大会

この大会は、北は北海道、南は沖縄県までの全国各地代表10チームを集めて、11月9、10日の2日間グリーンスタジアム神戸で開催されました。地元代表の神戸グリーンズも、練習を重ねて全国大会3回目にはチャレンジしましたが、全国の壁は厚く1回戦で愛媛県チームに3点差で敗れてしまいました。全国選手の層の厚さやレベルの高さにまたまた、驚き、野球の難しさをつくづく感じた大会でした。

今年は、岩手県で開催予定となっていてますので、我々の甲子園を目指して、県下の各7チームもがんばって全国大会にチャレンジしてほしいものだと思えます。今後共、福祉野球を皆で盛り上げたいと考えています。

我はと思う方は、いつでももっています。どしどし参加して下さい。大会運営に御協力下さった関係者の皆様には、この場をかりて、御礼申し上げます。本当にありがとうございます。



平成五年度

「愛護の集い」

確かに六月に入ってからのことだった。

第三一回全国精神薄弱施設職員研究大会の準備に追われているなかで「今年の愛護の集いは？」と話に出た。

「丁度全国大会と同じ時期や、一つに力を合わせて」と思いつけていた。

でも「あれはあれ、これはこれ」愛護協会の勝手なことや、愛護月間の行事として行なわれている育成会、施設保護者協議会、愛護協会、それに大方のお力ぞえで急速に充実を遂げた施設入所者等互助会の四団体が力を合わせての会である。

七月に入って、何としてでも時期を早めて決行しようと決まった。

九月三日、このところ恒例になっている「のじぎく会館」と決まり「人も街ももっとやさしく」一くらしをわけあう街づくりのために一を主題に参集した。

例によってそれぞれの代表から厳しい実践報告があり、映画「早期療育の夜明け」(ポーターで育つ子供たち)を観賞、大阪精神薄弱者育成会の港第二育成園々長・山川宗計先生の講演「施設と地域福祉」を聴

人も街ももっとやさしく

いた。

実践報告はつぎの通りである。

- 1 精神薄弱者専門相談の一年
- 2 施設互助会の現状と課題
- 3 生活ホームを育てる
- 4 ライフサイクルシステムについて

朝来郡育成会 椿野咲美

伊丹市つつじ学園 松永栄一

◎大会宣言



- 1 地域福祉の拠点としての施設の使命と役割を果すために福祉関係四団体の協調体勢を強化する。
- 2 施設職員の処遇と勤務

条件の改善を図るとともに研修を充実して、その人材確保につとめる。

- 3 知的な障害をもつ在宅者、施設利用者がスポーツ、音楽、文化活動の場を広げ生活の質を向上する。
- 4 知的な障害を持つ人達の権利擁護の制度を充実する。
- 5 地域で共に生活するホーム、グ

ループホームの整備、充実を図る。

- 6 精神薄弱者施設の量的な整備充実を要望する。
- 7 知的な障害をもつ人達が住みよい街づくり運動を推進する。

台風接近のニュースのなかで、四団体のいよいよの結束を誓い散会した。

・ばんたん・

ばんたん・ゆうあい文化祭

一月二十七日

姫路市文化センター・大ホール

楽団「ポケット」(三恵園)の合奏「小さなポケット」をオープニングに、「今月8日はさようなら」をみんなで歌って別れた。

合奏あり、合唱あり、民謡、ダンス、劇、それにすばらしいピアノの演奏あり、二十七施設・二十四種目の演技が改装なった姫路市文化センター大ホールの広い舞台いっぱいにくりひろげられた。

この人たちの文化への限りなき挑戦である。

姫路市と、神戸新聞厚生事業団の深いご理解とお力添えにより、盛会のうちに無事終ったことを感謝致します。

ーばんたん地区施設親善運動会は
第五回ー

平成五年六月二十五日に姫路市厚生会館で実施、利用者九〇四名、職員三〇三名合計一二〇七名の上に保護者、来賓のご参加をえた。

第一回は明石陸上競技場で例年開かれていた県愛護協会が主催した施設親善陸上競技大会に出場できないような重度の障害を持つ人も参加できる運動会にしたいということで始った。

文化祭についても、当初より職員の間では何か文化的なものをやりたいたいの声があがっていた。

各施設で話しあい、あたたためて二年、二年、漸やく平成五年一月、第一回ばんたんゆうあい文化祭を姫路市厚生会館で実施した。

暖房もない厚生会館だったが、舞台は熱気がこもっていた。丁度、県の方でも、三田市で第一回ゆうあい音楽祭が開かれた年である。本年度は年度当初に文化センターと予定して平成六年一月二十八日に実施した。

その間、親善委員長三恵園の大塚晋司さんが「南光園」(養護施設)の園長に栄転のこともあり、急遽木の根学園、近藤耕治さんを委員長に、親善委員会、さらに実行委員会力を合わせての文化祭だった。

ものいわぬ重い知的障害者が姫路市の文化ホールの大舞台一杯に踊り歌った姿は忘れられない。

「賢愚和楽」二十一世紀の知的障害者の姿を象徴するように思える。

夢は果しない。懸命にささえていただいた職員に感謝する。

総務部

「この度の大会では大変お世話になりました。当事者参加の分科会を企画していただき、同行できましたことを嬉しく思います。」

心地よい会でありました。互いに屈託なく交流をしている様は、理想とされる人間の付き合いかと思われ
ます。……

来年度の神奈川大会は、神戸大会の精神を受け継ぎ、温かい、爽やかな運営を図りたいと思います。……

(十月一日)

追伸 あけましておめでとうございます。……私は、神戸大会で得た本人部会のもつ和やかさと利用者たちの経験領域の拡大としての企画の意図を受け継ぎたいと思い、色々な会合で報告したことから、第二分科会(本人参加と自己決定)の運営担当者に指名されました。……神戸大会の精神の一端をつなぐことに尽力するつもりです。……」

(神奈川県立愛名やまゆり園)

岡 本 忠 之

既に、平成六年度第三十二回神奈川大会の開催要綱(案)には、テーマ『求められる福祉サービスと施設機能を利用者を中心に考えよう』により、第二分科会は「本人参加と自己決定」(障害を持つ人達の暮らしの

中での選択を、自己決定の角度から考える)とある。

金附洋一郎大会実行委員長、婦木治研修部長を中心に激論を重ねた第十四分科会(利用者本人が語る)が神奈川大会に引き継がれることを感謝する。

第三十一回全国施設職員研究大会は終わった。

シンボルマーク波と風見鶏で象徴された国際都市「神戸」での全国大会、「赤とんぼ」の歌で迎え、送った全国大会、「二十一世紀へ向けて」を合ことばに歩んだ三年間の思い出は深く楽しい。

「邂逅」「開眼」「瞑目」と遺された先人の言葉を今さらながらにかみしめる。

大会を通じ三〇六七名へ出会いがあった。

開かれた眼で「二十一世紀」を見ずえて、賢愚和楽、共に生きる社会を開かなければならない。

「この子ら」との出会いを改めて感謝し、「この子ら」を囲む多くの

同志との出会いを有難いと思う。

「人生余生なしただ後生あり」と、覚悟しながら、何かほっとする。掌を合わします。

(部会長 大村)

研修部

研究大会というものは、その規模が大きくなればなる程、コンセプトが曖昧になりがちである。それは参加者の多くが、お客様気分になりやすいからである。その点を今大会は特に留意し、スタッフも極力、県下施設職員に依頼し、職員の研究大会を前面に押し出して取り組んだ。又、過去の大会の傾向を分析し、今日的課題と将来(二十一世紀)的展望を洞察することに心がけた。大会のインパクトに特にこだわり基調講演、シンポジスト、利用者本人が語る分科会やシステム・人権・専門性・強度行動障害―名刺交換など31回大会港神戸へやってきた参加者が、充実感とさわやかな気分を持ち帰っても

らうことに努めた。

結果、月刊AIGO12月号での特集及び大会実行委員会編集の大会報告書でその全容が報告されているが、反響はいかがであったろうか。参加者及び読者のご意見を拝聴したい。

分科会においても、県下職員の司会進行で、熱っぽい議論がなされてそれぞれに成果が報告された。

次期大会の神奈川からも大会要綱の骨子が届いているが、31回大会を基に、さらに視野を拡大させ将来的課題を的確にとらえた内容である。31回大会のシンボル風見鶏が港神戸から、六甲おろしを受けて港横浜へ方向をむけている。後になりましたがスタッフの皆さん、ご苦労様でした。

(部会長 婦木)

国大会終る



会場部

平成5年9月30日無事大会を終えてそれまで緊張していた気分が一遍に無くなり、その夜はぐっすり眠れました。

会場部が一番苦労した事は分科会の第一希望を入れ出来るだけ皆様の希望どおりの会場をセットすることでした。分科会が16もありしかも参加者が三、〇〇〇人を越える大会では、一度予約した会場をキャンセルし、又新たに参加者の状況を見て予約するなど、研修部と連絡を取りながらセットするのに苦労しました。幸い一日目は好天に恵まれ大会もグーッと盛り上がり、何せ四、〇〇



第31回全国



〇人収容の会場であるため舞台装置がすべて小さく見え、照明、音響等もかなり大変でした。

二日目は分科会で会場部が一番苦労したところとです。(前述)

三日目は朝から雨が降り参加者も半分ぐらいになるのかと思っていたらほとんどの人の出席があり、帰りのポートライナーでは行列が出来る程でした。

この様に会場部は黒子に徹し、大会が盛り上りスムーズに進行出来るように気をつかい、会場のサイン、吊物、照明、音響、録音、呼出し(オーバヘッドプロジェクト)スライド、小道具のセット等、本番までが本番であり、当日は心配はしながら大会の進行を見守っております。

何はともあれ無事終了いたしました。総務部、研修部、参加部、その他多くの職員の皆様本当に有難うございました。

(部会長 河野)

参加部

9月28日、開門する前からスタッフが続々と集合。いよいよ第31回の全国大会のはじまりだ。平成3年より何回も会合を持ち、少しずつ骨格をつくり、内容が決まり、案内を出し申込みが送られてくるといふ全国大会への道は長かったが、三千名を超える参加者を迎え、本番開始。

案内係の面々は、各ターミナルや交通要所に早朝より立ち、スムーズに会場へと誘導しました。

受付は今回、都道府県別にチェックせず、チケットと交換で資料を渡すこととする。どっと受付にこられても人の流れは順調に進む、九時からのオープニングのマリンバの演奏の時はまだ会場がまばらと思っていたが、出足が早く会場がうまる。神戸はマリンバが盛んなところ、珍しいアンサンブルに耳を傾けながら大会の始まるのを待ちました。

29日 今日分科会。会場は近いとはいえ5会場。各会場への案内に

万全をつくしました。

今回は名簿を作成して各自にくばることをせず、各分科会場の受付にコピーした名簿の県別、分科会別のを用意し、情報のいる方に便宜を計り、これも特に大きな問題はなかったようです。分科会の受付も最小人数を置き、はじめれば会場に入り、発表を聞きました。弁当の引換え券もなしとし、コンピュータの活用と合理化を計ることで、大会運営を少しでも軽減することを考えました。昼休みに参加者同志の交流の機会として、名刺交換、施設紹介の時間をもうけたが、いかがであったか。夕方より今大会の特に新しい試みであった利用者本人部会のしあわせの村でのパーティに参加しましたが、皆うちとけあい、大変な盛り上がり、担当者はご苦労が多かったが、よい計画であったように思いました。

30日 大会最終日、特別講演の日いつもの大会では席のぬけていることが多いのに、会場が一杯に。

大会のテーマソングである「赤トンボ」の全員での合唱で、全国大会のビッグイベントを終えました。

参加された方々が、よき成果と思いい出をおみやげに、各地で活躍されることを、祈っております。

皆様のご協力に深く感謝します。

(部会長 藤田)

施設保護者協議会の組織強化について

県下の精神薄弱者施設の保護者会としての「兵庫県精神薄弱者育成会施設保護者協議会」の組織強化を図るため、平成五年六月以来、関係者で検討されてきました。

〈経過〉

・平・五・六・三〇

総会・研修会において会則改正についての提案

・平・五・九・三

各ブロックより理事の推薦依頼と改正案の検討依頼

・平・五・一〇・二七

ブロック世話係と現役員の合同協議会

・平・五・一一・二五

臨時総会、研修会において会則改正の承認と新役員の承認

〈今後の活動方針の一部修正〉

①県下一二〇有余の精神薄弱施設保護者会の連合体として連絡協調を密に図り、協同して施設利用者の福祉の向上に努める。

②精神薄弱者関係四団体としての組織としての協力を増強する。

③県育成会の組織強化に協力し、地域の育成会活動に積極的に参加する。

④県愛護協会の活動に対する協力を

強化する。

・地域福祉の拠点として開放された施設づくりに努める。

・施設保護者会の在り方について相互研修を深める。

・県愛護協会が実施する施設職員の研修に協力し、共に研修を行う。

⑤施設入所者等互助会の健全な運営のため保護者の全員加入を促進する。

⑥施設利用者の権利擁護に取り組む

・職業的自立

・本人の意志尊重

・日常生活の充実と処遇の改善

・権利擁護の徹底

〈今後の新しい事業〉

①施設職員の研修助成をする。

・利用者の権利擁護について

・地域福祉活動のあり方

②ブロック別の研修会を行う。

③育成会発行の「のぎく」を全会員に配付し、理解と協力を図る。

〈会則改正の要点〉

①理事の選出母体を県下五ブロックから二名ずつとする。

②会員は、施設利用者・定員一人あたり五〇〇円とする。

〈ブロック別施設名〉

(神戸ブロック) ……二八施設

おかげ学園、上野丘学園、さわらび学園、ひまわり学園、丸山学園、あけぼの学園、ひふみ学園、よろこび荘、アリス・エリザベスホーム、上野丘更生寮、ヨゼフ寮、清心ホーム、神戸明生園、グリーンホーム平成、陽気寮、ゼノの村、もとやま園、みのたに園、ワークホーム緑友、たまも園、おもしろ園、神戸聖生園、神戸光生園、玉津むつみの家、のぼら学園、新緑の家、ワークセンターいわや、あゆみの里

(阪神ブロック) ……三二施設

ななくさ学園、三田谷学園、あこや学園、北山学園、つつじ学園、やまびこ学園、いずみ園、ななくさ育成園、一羊園、まつば園、清流園、いずみ園、さつき学園、宝塚あしたば園、尼崎武庫川「松の園」、六甲園、名神あけぼの園、すずかけ作業所、すずかけ第2作業所、くすのき園、宝塚さざんかの家、小戸作業指導所、ななくさ新生園、芦屋翠ホーム、ワークホームつつじ、塚口福成園、猪名川園、ワークプラザ宝塚、尼崎武庫川園

「第2松の園」

(西播磨・中播磨ブロック) ……三一施設

赤穂精華園児童寮・成人寮・授産寮、つくし児童園、姫路学園、三恵園、若狭野荘、香翠寮、もちの木園、協和学園、栗の木荘、愛心園、ぎんなん寮、播磨園、しいのみ園、陽光園、若葉作業所、龍野つくし園、いちかわ園、もみじ園、サルビア園、いちよう園、かしのき園、かしのき園、三光園、真砂園、野の草園、サルビアの家、たかくら通動寮、さつき園

(東播磨・北播磨・淡路ブロック) ……二〇施設

いちれつ学園、五色精光園児童寮・成人寮、高砂児童学園、国療青野原病院、三木精愛園、あかりの家、希望の郷、ふるさと寮、つつじ園、木の根学園、あすなろ学園、ひのもと青年寮、木の根学園、加古川はぐるまの家、三木光司園、ひまわり園、善防園、のぎく療育園、ようばく寮

(但馬・丹有ブロック) ……十七施設

出石精和園・児童寮・成人寮、春日学園、沢谷荘、三田こぶしの園、東山荘、春日育成苑、三美学苑、丹南精明園、ポプラの家、多紀通園センター、おおや作業所、とおか作業所、たんば園、国療兵庫中央病院、さくら療育園、三美育成寮

施設紹介

(精神薄弱者通所授産施設)
社会福祉法人 恩鳥福祉会

たんば園

所在地 水上郡柏原町柏原字坊の奥

四二八三番地四

電話 〇七九五一七三〇五〇一

開設 平成三年四月一日

定員 三〇名

施設長 常岡逸夫

職員 九名

《沿革》

たんば園は、社会福祉法人恩鳥福祉会が運営する通所更生施設ボプラの家に次いで、精神薄弱者通所授産施設として併設されました。

施設は、JR柏原駅から徒歩で十五分、自然環境や周辺も総合整備され、小高い山の中腹に位置し、人間の尊厳を基本として、誠実と愛情をもって利用者の可能性を追求し人間性豊かな施設づくりを目指しています。

特色

法人の活性化を図り更生、授産施設の有効性と独自性



を有機的に結合し、効率運営を進め、処遇向上に努める。

〇処遇方針

利用者個人の健康を第一義とし、多くの人々に親しまれ愛される、心の豊さを社会的自立の基本として、作業、生活の両面の指導は、適切な生産活動の中で援助し、社会性豊かな人間形成をねらいとして、活発な生産活動を行い、目標を与え、人生価値を高め、働く喜びと生甲斐を持てるように援助することを目的とする。

- 一、利用者の能力、特性に応じた労働の場の提供、可能性の追求を中心とした指導、責任、忍耐力、集中力、判断力、協調性を養う。作業収益金の還元による自活意欲を高める。毎月二十五日工賃支払い
- 二、生産活動と生活指導を有機的に結合して効果を計る。集団生活、社会生活への適応性を高める。生産人としての自覚の確立。
- 三、クラブ活動並びに情緒学習
- 利用者の自主的活動の機会を与える。手芸・音楽・スポーツ・調理実習等。療育音楽・楽器による演奏訓練。避難訓練。
- 四、障害の程度、性別、年齢等に適合した個別指導の徹底と集団指導の結合。

施設紹介

(精神薄弱者入所更生施設)
社会福祉法人 三田谷治療教育院

芦屋翠ホーム

所在地 芦屋市楠町十六ー五

(連絡先) 西宮市郷免町四ー一

電話 〇七九七(二二) 七六八〇

FAX 〇七九七(二二) 八一六八

定員 三〇名(男性十二名、女性八名)

開設 平成五年四月一日

施設長 山崎 玲輔

職員 十七名

《沿革》

当施設は、昭和三十二年に三田谷治療教育院の年長児童への自立自活の作業・指導の場として、当院創立三〇周年記念事業として計画された「農園学寮」が母体であります。

当時は、

今の建物の敷地内に平屋建の一棟の寮と農地かなる作業と生活の場でありました

が、入所児童の多



様化、地域環境の変化等に伴い、成人部の計画に至りました。現在の建物は当時の農地の上に建っている為「農園学寮」とは言えませんが、精神は引き続きこの芦屋翠ホームにも繋げていきたいと思っています。

〇運営方針

- 一、自己完結しない施設を目指す。
- 二、利用者の個々の人格を尊重した生活の場を保障する。
- 三、集団指導ではなく個別の指導を目指す。
- 四、生活に変化をもたせ、個々の持つ能力を引き出しつつ情緒の安定を計っていく。
- 五、楽しい生活の場であることを、利用者・職員が一つになって目指していく。

ここには、芦屋の住宅地の中の、しかも交通の便が良いという立地条件があります。又、昭和二年から今日まで延々と続いて来た三田谷治療教育院のポリシーも流れています。それらを、この施設の日一日にどう反映させていくのかと言う大きなテーマを背負って、若い集団と新しい建物で展開していきたいと思っています。

施設紹介

〈精神薄弱者入所更生施設〉
社会福祉法人 神戸あゆみの会

あゆみの里

所在地 神戸市西区神出町宝勢八五
ハリー

電話 ○七八一九六五―二三六〇
FAX ○七八一九六五―三三八〇
開設 平成五年四月一日
定員 四〇名

施設長 仲 経敏

職員 二四名(うち指導員十二名)

△沿革△

昭和五九年、神戸市情緒障害児治療教室に通う数名の仲間達で「あゆみの会」を発足させ、昭和六二年一月子供達の自立を願って同じ悩みや希望を持つ親達に広く呼びかけ二十数名の有志で、あゆみの里設立準備会を結成する。建



設用地の反対に会
う等厚い
障壁をク
リアし、
平成四年
十二月法
人の認可
翌年四月
に十年の

歳月をかけた成果を实らせ開設する。

○設立運営の方針

利用者の個性を最大限に尊重し、利用者が主体性をもって生活できるようにその意志を尊重し、相互信頼関係による明るい温かな生活を目指す。ノーマライゼーションの原理を積極的に推進しながら社会的自立・自律を促進し、QOLの向上に努めるとともに文化的生活を高め社会参加を促進する。

○援助方針

- 一、利用者の人権を尊重し、生活サービスクラムへの本人参加、選択、自己決定の中を増やす。
- 二、社会資源を積極的に導入し、文化的生活を求めハイグレイドの援助を提供し、QOLの向上に努める。
- 三、個人サービスクラム(援助)プログラムにより、利用者の社会的自立、自律を目指す。
- 四、体力の維持増強、成人病対策、早期老化防止のためにランニング等スポーツを促進する。
- 五、利用者の週末帰省を弾力的に実施しながら家庭との協力体制を維持する。
- 六、施設の専門的機能を地域社会に提供し地域社会と交流を深める。

施設紹介

〈精神薄弱者通所授産施設〉
社会福祉法人 宝塚さなか福祉会

ワークプラザ宝塚

設立 宝塚市
運営 (社福)宝塚さなか福祉会
ワークプラザ宝塚

所在地 宝塚市口谷東三―二十八
電話 ○七九七―八九―八七三三
開設 平成五年十月一日
定員 四〇名

施設長 大野セツ子

職員 十一名(うち指導員七名)

△沿革△

本施設は、市内で四つめ(一つは無認可)の通所施設として、市が設立し、運営は本法人に委託されてい



ます。三階には、市手をつなぐ親の

会運営の「生活訓練ハウス」が併設されていますが、これらの計画は全て、市、法人、親の会の三者で組織された「施設研究会」(H2年発足)及び「施設計画委員会」(H3年発足)で討議され、決定されたものです。

○設立運営の方針

ノーマライゼーションの理念に基づき「地域で働き、地域で暮らす」ことを目標に、利用者自身の能力を最大限に生かし、可能な限り社会参加が出来るよう指導援助します。

又、真に地域に融合した施設となれるよう、施設機能の開放、地域との交流など積極的に取り組みます。

○利用者処遇の内容

(1)職業指導 作業は「一般就労をめざした訓練」とし、特にその可能性の高い利用者には、企業実習による重点指導を行う。又、企業内作業に向けても努力する。

授産種目は園芸、公園清掃、縫製、下請けのほか喫茶部も準備中。

(2)生活指導 基本的な生活習慣の確立とともに、社会適応能力の向上をはかる為、施設内店舗(喫茶部)をはじめ地域との交流行事等で社会との接点を出来るだけ多くする。又、親の会運営の生活訓練ハウス及び生活ホームと連携し、社会自立に向けての生活指導を充実させる。